
眠った間隔

水葫沫

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

眠った間隔

【著者名】

N2287BA

水葫沫

【あらすじ】

夢と現実の幅間を描く、儚い物語。

この作品はグロテスクな表現が含まれています

序章へ 終わりの始まりへ

空想が現実のように見える物語。『空』には、まだ解説されていない出来事が起こるかもしれない。確率1%まで追い求める。そんな世界・・・1人の少年が呟く・・・「あの坂はまだあるのだろうか。」幼馴染の少女は言い返す・・・

「あの坂は朽ち果てたよ。」人は何故過去に振り返ろうとするのだろう。坂は朽ち果てているのに気づかない少年。そう・・・納得がいっていない過去だからこそ振り返る。

人は皆、過去を見るばかりで現実を忘れている。しかし・・・人生はそう簡単なものではない。過去があつてこそ現実。過去と現実は繋がっている・・・

あの坂は何故無くなつたのだろう?それは

少女の母親が死んだ時にその現場があの坂・・・

交通事故の現場なんて縁起が悪い場所だと言つて街はその坂を取り壊した。少女は嘆く

何故奪うの?幸せを掴もうとする瞬間、何故神は私の幸福を・・・涙が溢れた。人は何かを手に入れれば何かを失う。だが世の中は不公平なことに失うものしかない人々もいる。母を失い、少女は思う夢の中へ飛び込もう。夢へ行けば何もかも忘れられる。お母さんと同じ場所へ行こう。

少女はナイフを取り出した・・・

もう要らない何も要らない。お母さんだけでいい。自殺を図ろうとした瞬間、少年が守る・・・ナイフは少年の体に突き刺さった・・・

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2287ba/>

眠った間隔

2012年1月5日20時48分発行